

【作文の部】

※作品内の表現については原文のまま掲載しています。

小学校 最優秀賞

「三ぼあるいたらわすれます」

長南小学校 2年 大北 英虎さん

ぼくはいらんこと言いなところがあるらしいです。とうばんやかかりのしごとがにがててです。人の話をきくこともにがてです。もちものせいとんもにがてです。今すべきことをりかいできないし、三ぼあるいたらわすれます。笑

だけど、みんなとなかよくできるし、自分の思っていることを話すことができます。学しゅうのよういやしゅくだいもできるし、へんじやあいさつがとくいです。今すべきことの声かけがあれば、すぐにとりくむこともできます。ママがしごとでつかれてるとき「大丈夫？ママおつかれさま。」って言うと、「えいとはママのヒーローや。」と言われます。ぼくにはにがてなところととくいなところがあります。ママにもあるそうです。おともだちにもきっとあると思います。みんないっしょじゃないけれど、みんないっしょじゃないからさいこーなんだと思う。けっきょくぼくはぼくのままがとうといんだとわかった。ママうんでくれてありがとう。えいとはきっと大丈夫。

小学校 優秀賞

「こうちゃんのままでいい」

第一小学校 1年 貝塚谷 光ノ介さん

じんけんっていうことばは、ぼくにはすこしむずかしいです。おかあさんは、「こうちゃんは、こうちゃんのままでいいんだよ。どんなこうちゃんでも大すきだよってことかな。」といいました。ぼくは、ちょっとうれしい気持ちになりました。

ぼくは、先生やともだちのはなしをしゅうちゅうしてきくのがにがてです。ほかのことが気になってちがうことをかんがえてしまいます。ひまわりきょうしつでは、先生がしゅうちゅうりょくをあげるトレーニングをしてくれています。

にがてなことがあってもいいとおもいます。いまはできなくても、すこしでもできたときは先生がほめてくれるし、もっとトレーニングをがんばりたいって気持ちになります。

じんけんってじぶんらしくいること。まわりにたいせつにおもってもらえることと、ぼくはかんがえます。ぼくも、ぼくとまわりの人をたいせつにしたいとおもいます。

小学校 優秀賞

「杉原千畝物語 命のビザをありがとう」

長南小学校 2年 月木 陽菜さん

私が杉原千畝という人に初めてきょう味をもったのは、「悲劇少女アンネ」という伝記を読んだのがきっかけでした。ユダヤ人というり由で死ななければならなかった少女。私は小さなアンネがなぜ死ななければならなかったのか、なっとくできませんでした。そんな時、母が「アンネのような人を助けようとした日本人が昔いたんだよ。」と杉原千畝のことを教えてくれました。

私はユダヤ人さべつの中、ビザをはっこうするのは勇気のいることだと思いました。はっこうすると大しかんの仕事をくびにされるかもしれません。その上、家ぞくに危険がおよぶかもしれません。でも千畝はビザをはっこうします。目の前の人を助けたいという気持ちが強かったからだと思います。

私はつまの幸子さんもすごいと思います。なぜなら、まよっている千畝に「これだけの人をおいたまま、私たちだけがにげるなんて、ぜったいできません。」と言ってせなかをおしたからです。だから千畝はいつものやさしい笑顔になれたのだと思います。

私は、ビザのはっこうをなぜ日本の大しかんが反たいしたのかわかりません。日本とドイツが同めいしてたとしても、人のいのちはドイツ人だろうとユダヤ人だろうと日本人だろうと、みんな大切だと思うからです。

千畝は体がつかれてヘトヘトになるまで書き続けました。その数は六千まいにもなりました。どれだけ大変だっただろうと考えると本当にすごいと思います。

もし、私が千畝だったら、千畝と同じようにビザを出すことをえらびます。そうしたらアンネのような人を助けられると思うからです。自分いがいの人のいのちを自分と同じように大切に思うこと。千畝が教えてくれたことを、私もずっと持ち続けたいと思います。

中学校 最優秀賞

「声なき命を聞く勇氣」

佐野中学校 3年 玉木 百々花

「今なお心の底で私は信じている。人間の本质は善なのだ」と

アンネ・フランクの書き残したこの言葉は今の私の心を深く揺さぶりました。この世界で本当に「人間の心は善なのだ」と信じてもいいのでしょうか。アンネが生きた時代を知ると、その重みとそんな中で諦めずに持ち続けた希望が胸に突き刺さりました。

第二次世界大戦中、ドイツではヒトラー率いるナチス政権がユダヤ人への徹底した差別や迫害を行っていました。「ユダヤ人は劣っている」「社会の敵だ」と決めつけられ、学校や仕事、住む場所さえ奪われ、最後は強制収容所に送られ、多くの命がその場所で奪われました。

その数、約六百万人。それは想像を超える規模の「人権の破壊」でした。

アンネ・フランクはその時代を生きた、オランダで暮らすユダヤ人の少女でした。十三歳で日記を書きはじめ、十五歳で強制収容所で命を落としました。彼女は家族とともに、ナチスの目から逃れるため、アムステルダムの裏通りにある「かくれ家」に二年間も身を潜めて暮らしていました。

その暮らしは想像を絶するものでした。昼間は足音一つ立てられず、窓も開けられず、ラジオの音も立てることはできなかったのです。見つかったら連行され、殺される。そんな極限の生活の中でも、アンネは毎日、自分の心と向き合い、日記に思いを綴り続けました。彼女の書いた言葉には、夢や希望だけではなく、怒りや不安、悩みもありました。それは「歴史に登場する悲劇の少女」というより、「私たちと同じ、悩みながら成長する一人の女の子」の姿でした。だからこそ、彼女の言葉は時代を超えて今も多くの人に届いています。

「なぜ、ユダヤ人だからという理由だけで殺されなければならないのか」私はその問いに答えを出すことができません。人が人を分類し、「自分と違う」という理由だけで恐れたり、攻撃したりします。それは戦争の中だけで起きることではありません。今も世界中で国籍や宗教、肌の色、障がい、などを理由に人が人を差別する場面が絶えません。だからこそ、私は思います。アンネの言葉が今こそ必要なのだと。

彼女は、世界が最も暗く冷たかった時代に「私は信じている。人間の本质は善なのだ」とそう言ったのです。誰にも見せることのなかった日記にそう書いたのです。それは、「人間らしさ」を奪われた時代に、最後まで人間であろうとした、彼女の強さだと思います。

人権とは、特別な人だけが持つものではありません。私たち一人ひとりが、生まれながらに持っている「生きる権利」です。

その権利は「当たり前」ではないことを歴史が教えてくれます。誰かが声を上げて立ち上がり、そして誰かが犠牲になってきました。そのうえに今の私たちの自由な生活があるのです。

だから私は、忘れてはいけないと思います。差別や偏見は今もこの世界にあるということを。そしてそれに気づいたとき、「知らないふり」をしないでいたいです。「違い」を、「間違い」だと決めつけず、知ろうとする、理解する人でいたいです。

アンネが守れなかった、叶えることができなかった未来を私たちが守ります。彼女の言葉に応えることができるのは、この世界を生きる私たちだけだからです。

人は人のままで生きて、愛される権利があります。彼女が残した希望を、声を、私は決して忘れません。

中学校 優秀賞

「いじめ問題」

佐野中学校 3年 南 拓磨さん

みなさんはいじめについてどう思いますか？いじめられている人や見たとき、自分には関係ないから無視してしまうことはありませんか？いじめはすごく身近で起きていることです。

たとえば、学校のいじめで靴や物を隠されることがや友達にお金をとられることだけがいじめじゃないと思います。じゃ、本当のいじめは、その人の悪口を言ったり、暴力をふるったり、仲間外れなどのことです。お金をとったり、物を隠されたりするのは、軽いいじめですが、人の嫌なことを言ったり、暴力をふるうのは重いいじめだと思います。いじめている側はいじりやちょっと楽しくやってるかもしれないけど、いじめられている側は毎日毎日、心がつらく、今生きてても意味あるのかな、早く死にたいと思う人が多いと思います。自分も軽いいじめを受けていました。毎日毎日、すごく心がつらく、早く死にたいと思っていました。悪口を言われてすごく悲しかったです。その悪口はどんどんエスカレートしていき、とうとう自分は病になり学校がしばらく行けなくなりました。家にいる時はすごくつらくて、もうどうでもよくなりました。その後、先生にいじめの件を言い、そのいじめていた人に色々言ってくれて、自分も一カ月位したら、す

ごく楽になったので、久しぶりに学校に行きました。ですが、まだ教室に入ることは難しく、違う部屋で過ごしていました。その日は、自分は教室に入ることが目標だったので、勇気を出して、教室まで行きました。そして、とうとうドアを開けました。その時はみんな見て見ぬふりをしていたけど、休み時間になると、意外なことが起き、いじめた子が自分にむかって優しい言葉で話しかけてきました。それで、いじめた子はみんな謝ってくれて、今までのことは絶対ダメだけど、これからはしないかとそう信じて許しました。それから、友達関係はちょっと良くなったけど、学校はすごく怖くて不安でした。ですが、みんなから話しかけてくれたり、支えてくれたから、自分も学校をがんばろうと思いました。今は、みんなクラスはバラバラになって新しい友達ができてたけど、自分はまたクラスの新しい友達ができて、今のクラスはとても楽しく、みんなと一緒に話して過ごしたりして毎日毎日が楽しく過ごしています。自分も、もし友達がいじめられていたり、いじめが起きている場面を見たら、今までのことを考えて、助けに行ったり、その子の話を聞いたりして、少しでもその子の心や悩みを減らして、今までの日常を送れるようにしたいと思いました。自分もいじめられないように努力しようと思いました。

今まで生きてきたなかで、いじめにあった人は、少なからずいると思います。でも、いじめを受けて、心をふさぎこんでしまうのではなく、何か違う道に進んだり、違う方向に向かったりして、新しい世界とかに会えたりしたらいいと思いました。ニュースにも出ていたけど、一番の原因は、人の悪口や暴言だったので、人と話す時は、言葉づかいを考えて相手が嫌なことになってないかを日頃から見るのが大切だと思いました。自分もこれからも人を守ろうと思いました。

中学校 優秀賞

「好きなもの」

長南中学校 3年 松永 莉依愛さん

※都合により作品の掲載を控えさせていただきます。